



鬼ヶ島片瀬茶碗 径15.5 高さ9cm



鬼ヶ島御影密作花入 胴径10 高さ15cm



真瀬川茶碗 径11.3 高さ9cm



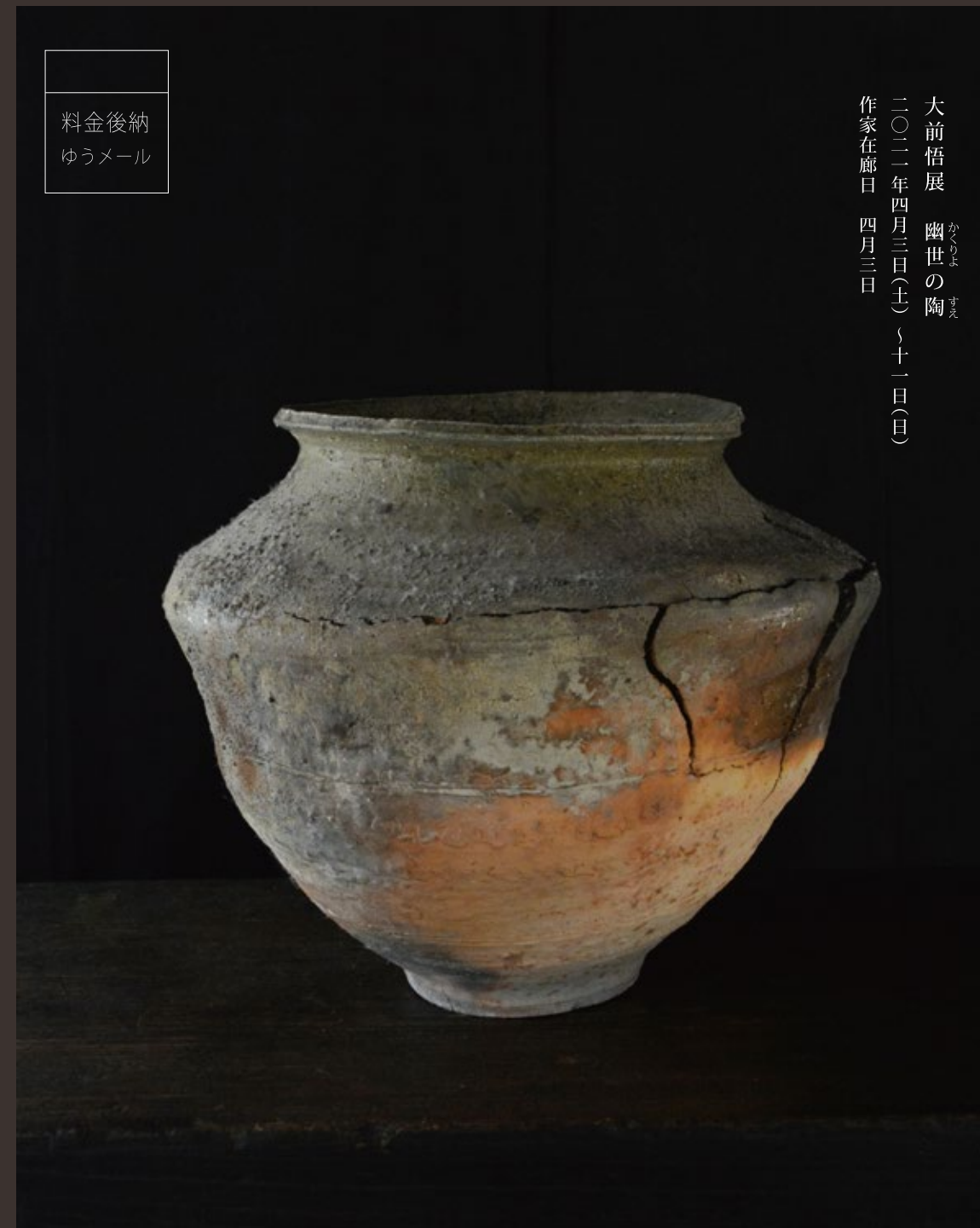
黒尾駒子 胴径16 高さ23cm



黒鬼そろばん罎 胴径20.5 高さ16cm



赤茶碗（加賀光沢写）径12 高さ9.5cm



鬼ヶ島焼締破れ罎 胴径39 高さ33cm

大前悟プロフィール
1972年 大阪に生れる
1990年 神戸にて陶芸を始める
1999年 大阪にて初個展
2001年 信楽に移住
2003年 余地下式穴窯を築窯
2010年 兵庫県淡路島市に移住
2010年 半地下式穴窯を築窯
2021年 現在、同地にて作陶

井戸、黄瀬戸、白染、赤染、国宝・不二山写、重文・加賀光沢写も目を見せる大前悟さんの茶碗の数々。実に上手い。茶陶愛好家に支持される理由も分かります。骨董の見識、土の選択、造りの巧さ、焼き方を踏まえたうえで、その風合いの捉え方にセンスを感じます。大前さんの焼き物は古陶の欠片が原点と言います。割れて朽ちたものに、温かさを感じ、当時の陶工たちの営みまで見えてくるそうです。興味深いのは、そのアプローチにあたって地元・淡路島の上を使ったものが多いことです。つい古陶に取り組むとその原点に近づこうとして、材料も方法も原理に拘りがちですが、大前さんの場合、そこに因わずにその組成を読み取ったうえで、現地の土を使いこなしていることに天性の勘所の良さを感じるのです。現世（うつしよ）にあって、幽世（かくりよ）の陶（すえ）を得る。そう、古陶の再現ではなく、時間軸を超えた普遍性が大前さんの焼き物の魅力だと思います。昔段は茶陶とは距離のある弊店ですから、従来からの大前さん支持される方だけでなく、初見の方もぜひこの焼き物を目にして頂ければと思っています。 店主

料金後納
ゆうメール

大前悟展 幽世の陶
二〇二二年四月三日（土）～十二日（日）
作家在廊日 四月三日



ギャラリー うつわノート
埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-236-8715
MAIL utswanote@gmail.com
電車：日曜駅 東武東上線・西上り徒歩5分
本館駅 西武東上線 徒歩5分
バス：新井口駅前 小江戸所めぐり～(徒歩5分)
新井口駅前 小江戸所めぐり～(徒歩5分)
車：ギャラリー専用の駐車場は北側5～6車

大前悟展 幽世の陶
2021年4月3日(土)～11日(日)
作家在廊日 4月3日

GALLERY
うつわノート